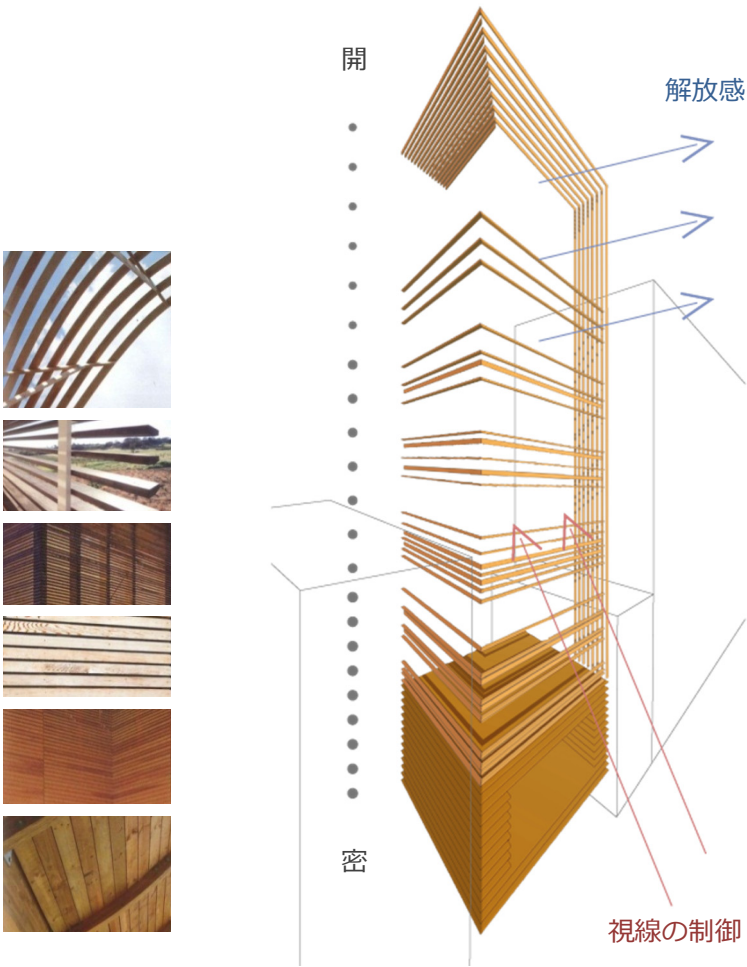




銀座の木の積層体

2010年に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されて以降、都市部における建築外装への木材利用は、二酸化炭素固定化の気運とともに関心が高まっている。この建築は建築主の本社事務所1フロアを含む地上8階建ての商業ビルとして、東京・銀座の最中心部からほど近いすずらん通り沿いに計画された。

「銀座にないもの、あったらいいもの」を模索する中で、木材が持つ生(なま)の質感が醸し出すぬくもりとやすらぎに包まれた建築に思い至った。かつて都市不燃化の先駆けとして煉瓦色の街並みを築き上げた銀座に、不燃木材という現代素材を特徴的に使った外装デザインによってこれまでなかった新しい価値の創出を試みた。



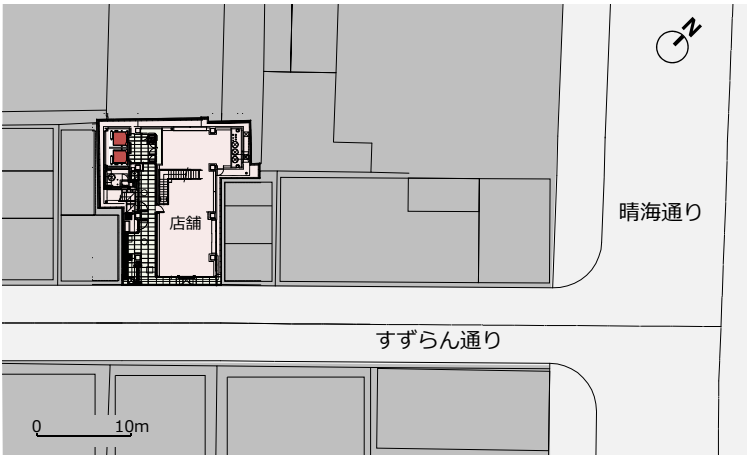
コンセプト

木材を積層し、その間隔を上層に向かって徐々に密→粗へと変化させながらビル全体を木で一体的にデザインすることにより、とくに狭小街区では1～2階部分にとどまりがちな歩行人の視線を高層階に導き、「見られる」価値を空中へと引き上げるファサードを目指した。

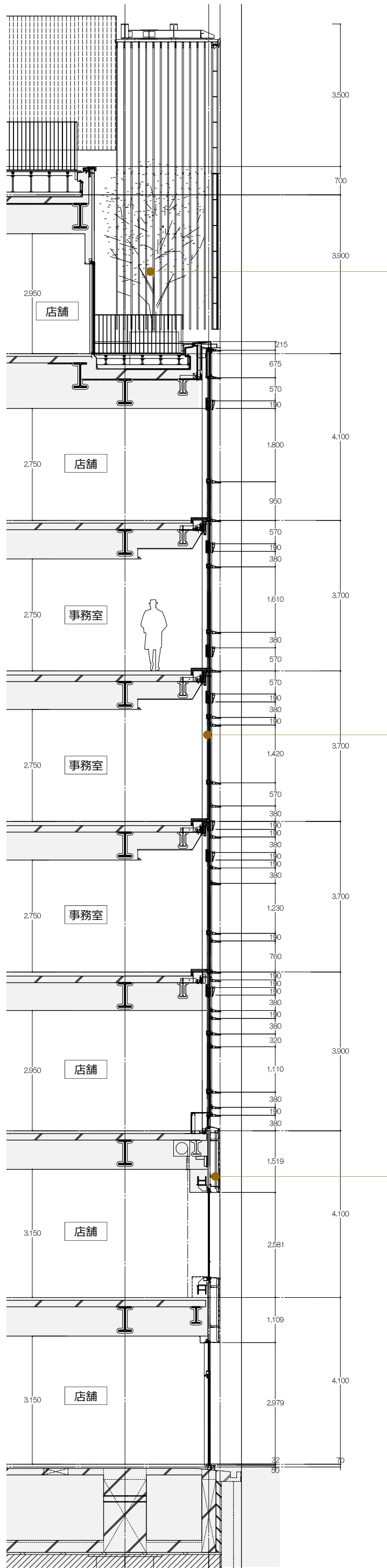
都市の高層化・高密度化とともにその空間的価値を高めてきた空中の街並みに今一度人々の目を向けさせるとともに、無機質な銀座の空に木のぬくもりとやすらぎに包まれた天空のテラスを創出した。



附近見取図



配置図兼1階平面図



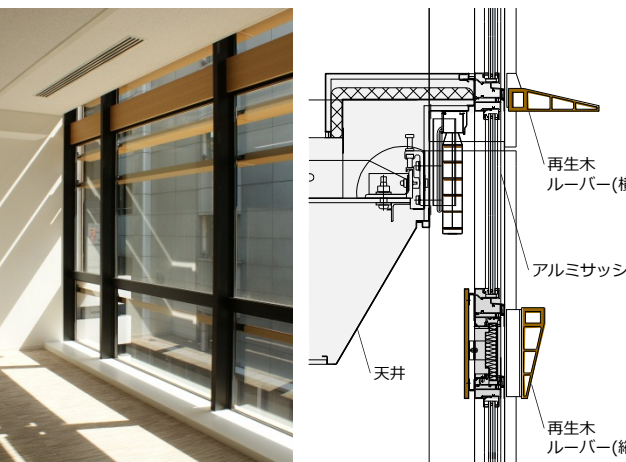
断面図

天空の木のテラス



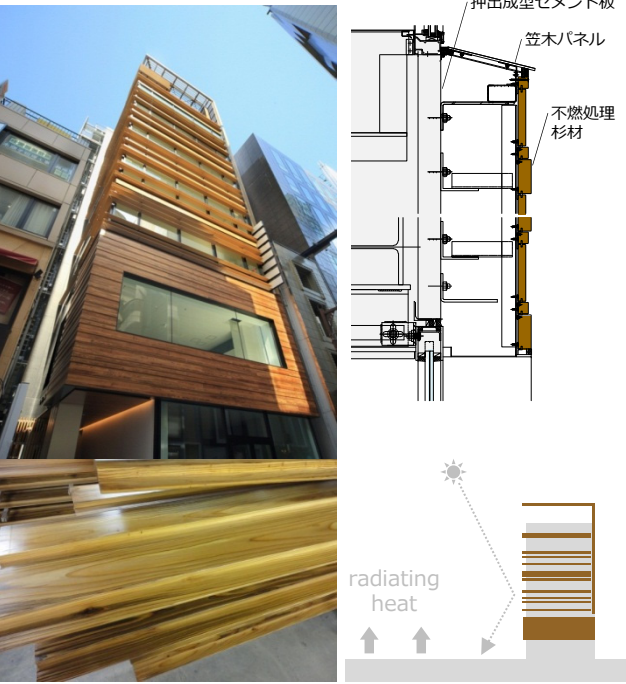
屋上のテラスは木の階段とパーゴラ・樹木によって象徴的に構成し、そこに集う人々のアクティビティをグラウンドレベルにおいて予感させ、視認できることを意図している。木のぬくもりと包まれた空間を2方向に開くことによって開放的にし、都心上空の限られたスペースで商業的価値の向上を図った。

再生木材を使用したルーバー



中層部に設置されたグラデーション・ルーバーにはメンテナンス性も考慮し、木粉に樹脂を混ぜて成形した再生木材を使用した。オフィス階の日射遮蔽とプライバシー確保を目的としながら内部からの眺望を妨げないように設置間隔を決定されたルーバーは同じ型材の設置向きを変化させることでファサードに奥行きを与え、木を面として効果的に見せている。

不燃杉材を使用した外装



低層部には不燃処理を施した天然の杉材を密実に積層した。木の素材感が持つ柔らかなあたたかみに、黒い金属のディテールを組み合わせることにより、銀座の街が持つ「重厚さ」「華やかさ」に相応しい都市的で強度ある建築表現を追求した。不燃処理を施した木材は、不燃薬剤が風雨にさらされて木材の表面に浮き出る白華現象を防ぐための特殊な塗料でコーティングしたものである。都市の高密度化と不燃化の象徴たるここ銀座で、素材の質感にまでこだわった木の表現を試みたことは、今後の木材利用の多様な展開に繋がるものと考えている。

